

リレー随想

国際的な柔道選手である田村亮子さんが水前寺の武道館で強化合宿をすると、彼女のおばさんである植木町のSさんから教えてもらい、小学生の息子と娘、それに私の三人でヤワラちゃんを見に行った。四時から始まる合宿を前に、大勢の人と一緒に通路で待っていると、田村亮子



田村 亮子選手

選手をはじめ、日本の主力級の選手たちが武道館に姿を見せた。

田村選手は、大勢集まった私たちを前に、「こんにちは」と一言、彼女の方からあいさつしてくれた。これから合宿練習に向かう彼女は硬い表情で、テレビでよく見る、あの人なつっこい顔ではなかったが、それでも彼女を囲んだ大勢の人に対する心配りみたいなものを感じて、私はすぐにファンになった。息子は後でサインをもらおうと色紙を三枚持ってきている。

ヤワラちゃん見聞記 (II)

土地家屋調査士

田口 一法さん



が、何分にも平成九年のことなので記憶はあやしい。この時いた重量級の選手が熊本出身の選手だと、次の日の新聞を見て知ったのは覚えてる。合宿の内容は、それぞれの選手に地元高校の女子柔道部員たちが次々に掛かっていくもので、数人を相手にするとさすがの選手たちも息が上がっていた。

ここでも田村選手が一番人気で、列に並んだ部員の数も多かった。積極的な部員は列の前に出て何度も掛かっていくが、引込み思案な子は列の後ろで、前に入るタイミングがつかめないでいるようだった。

母親らしき人がカメラを持って、そういった一人の子の背中を押すと、その子は前に出て、組んだと思ったら、すぐに勝負がついていたが、それでも田村選手とのツーショットは撮れたわけで、母親は満足げにその場所を引き上げ、私たちのいる観覧席へと戻ってきた。場所取りも一段落したので観覧席を見渡したが、大人の男性は私だけだった。

「選手でない人が畳の所にいてはいけないんだよ」。娘はそう言ったが、「ヤワラちゃんとおまえたちと、写真撮れるかなあ？」と、私はその様子が少しばかりうらやましかった。

家庭教師の森田さん、友達の内藤君と自分の分という。私は機会を見て、子どもたちと写真を撮らせてもらいたいと思っていたるが、人も多く、その機会はあるだろうかと不安になっていった。Sさんがいけば頼みやすいが、今日は来られないとのことだった。

この時の強化合宿の選手は、五名いたように記憶している

(熊本市花園、48歳)